

【資料1】

平成24年 3月22日

山ノ内町教育委員会 様

山ノ内町小学校あり方検討委員会
委員長 荻原 保儀

委員会では、「小学校の今後のふさわしい教育環境はどうあるべきか」をテーマに検討を重ねて参りました。2年にわたり、各委員が地域の声を持ち寄って意見交換に努め、テーマに沿ったまとめをいたしました。

教育現場が新年度を迎えようとしている今、ここに検討の結果を報告します。

○教育の機会均等の観点から、どの子どもにも6年間の充実した小学校教育が保障されるように一層の環境改善を図られたい。

- ・適正規模の学級編成

少人数のよさはあるものの、子供同士の学びあいは適正規模で、しかも複数の学級が編成されることによって成り立つ。1学級人数は20人から30人が適当である。

- ・教員配置

これまで、町は県の加配に頼って学級の維持と教員の配置を行ってきた。更に、今年度は、町単独で加配教員をつけて学校教育の維持を図ろうとしている。このことに対して感謝の極みである。

今後は、これと同様の状況が数校に拡大することになる。

- ・学力の向上

どの子どもにも学力を保障する教育体制が必要になっている。

せつかく身に着けた知識理解が実際に生きて働く力となった充実感を子ども自らが実感できることが大事である。そして、より広い社会生活の中で認められることが必要である。

このことによって、学び生きることへの関心や意欲が拡大するように期待する。

○多数の委員さんはできるだけ早期に一校にした方が良いとの意見であります。しかし、一方では現状のままで良い、少人数のメリットを生かすべきだ、コストについても考えて進むべきだとの少数意見もありますので、今後教育委員会でこれらを踏まえて方向付けをされたい。